

暑中お見舞い申し上げます!

7月下旬より連日厳しい真夏の暑さが続いておりますが、友の会会員の皆様にはおかわりなく、お元気で過ごしてはいかがでしょうか?

猛暑、酷暑、熱帯夜等、字を見ただけで怯んでしまうような連日の暑さですが、それでも8月生まれの女性は元気です!天野克子さん、私達のコンサートミストレスです。



今から7年前の2008年9月に、左のコンサートがあったことを覚えている会員の方もいらっしゃるでしょう。天野先生の古希をお祝いしたあの日から早くも7年がたっとうしてしまいましたが、その間変わることなくお元気で、ますますエネルギーに私達をリードして下さる先生が、今月めでたく喜寿のお祝いを迎えられます。

今回は表立って祝祭の形をとってはいませんが、ポスターを見ただけで「第73回定期演奏会」が何かスペシャルなコンサートだということが、皆様にも感じていただけるのではないのでしょうか?今度の演奏会は30年以上にわたって厚響のコンミスを務めてこられ、これからもまだまだ頑張っていたきたい先生への、私達団員の心からのプレゼントです。

皆様にも御一緒に祝っていただけましたら、こんなに嬉しいことはありません。



天野先生にインタビュー!!

すっかりお馴染みになりました「友の会通信」恒例のインタビュー!!今回は満を持して、我がコンミスの登場です。同じヴァイオリンパートの事務局今村と岡田が、好奇心いっぱい先生に60余年に及ぶヴァイオリン人生について伺って参りました。貴重なお写真もお借りして来ましたので、掲載させていただきます。(以下、ヴァイオリンはVn.と表記いたします。)



先生のご自宅にて

—これまでVn.と共に歩んでこられた60余年を振り返ってお話いただけますか? まず、芸大に入学されるまでのエピソードからお願いします。

Vn.を始めたのは小5の秋、両親の勧めで、同じ西宮市内にお住まいだった廻神狭野子(めぐりがみさのこ)先生のもとに通う事になりました。始めて三日目に発表会があり「蝶々」を弾いたのよ。出て行くときにパターンと転んだこと、今でも覚えている。(笑)

廻神先生は上海音大ご出身の素敵な方で、とても可愛がって下さいました。日曜の朝レッスンに行くと、そのまま夕方までずっとレッスン室の隅で聴いていたものよ。ときには夕飯を御馳走になったり、泊めていただいたこともあったのよ。でも家での練習は大嫌いだった。毎晩父に「Vn.弾いたか?」と言われるのが嫌で嫌で。指は動くし、譜面は読めるからすぐ弾けちゃうでしょ?子供だから何やっていいかわからない!

2時間練習しなさいと言われても、時計の針がなかなか進まなくてね。NHK神戸放送局のラジオにも何度か出演して弾きました。あるとき風邪のせいで鼻水が止まらなくて涙をすすりながら弾いたら、もうお話が来なくなっちゃった。(当時は全て生放送でした。)

中学2年から芸大に入るまでは、BK大阪放送管弦楽団の坂田健吉先生にお世話になりました。可愛がっていただいてコンクールもたくさん受けさせて下さいました。

中2で毎コンの学生コンクール、西日本で優勝して全国では2位でした。先生の奥様がピアノ伴奏して下さいただけで「こんなやぼったいモーツァルトで受かるわけないわ」と言われ、受賞後の新聞評でも全く同じことを書かれました(笑)。



小5のとき、発表会で。左の少女です

芸大を目指そうなんて全然思っていなかった。本当は大学で国文学をやりたいかったの。Vn.はやらないと怒られるからやっていた。それでも当時はVn.弾く人なんて多くないから周りの友達みんな、私がヴァイオリニストになると思っていたよね。学校の文化祭でもいつも弾いていたから。芸大の願書は親が勝手に出してしまったのよ。さすがに芸大の先生にもみてもらわなければということで、高3の10月位から初めて東京にレッスンに来るようになったの。当時は夜行列車で13時間！でも数回通っただけで、12月にインフルエンザから腎臓炎になってしまって、2月まで寝込むことに。でも、不思議と焦った記憶は無いのよね。

ようやく回復して、未広がり縁起がいいからと2月8日に東京に出発しました。それから入試まで的一か月間は本当によく弾いたわ！ピアノや聴音もあるし、一日13時間は弾いていた。高校の卒業式にも出られなくて、クラスの友達一人一人に手紙を書いたのよ。芸大の同期は12人、内8人が付属高校からで、地方から来た私は本当に何も知らなかったと思う。入試で音階弾くときに「F-dur」とドイツ語で言われてわからなくて、「日本語で言ってください」と叫んだの(笑)。これは後々、後輩の間で語り草になっていたみたい。



高1のとき、楽器店主催のコンクール

一大学生活はいかがでしたか？芸大での思い出を教えてください。

せっかく合格できたのに、4月にまた腎臓炎が再発して半年休学することになり、結局一年遅れで卒業したの。学生時代はあまり遊んだ思い出はなくて、週2回のレッスンのためひたすら楽器を弾いていたと思う。オケの授業もあったけど、当時は楽しいどころかオケのことを何も知らない私にとっては緊張の連続でした。学生時代の一番の楽しみだったのはドイツ語の勉強に夢中になったこと。

一卒業後は大阪フィルハーモニーに入られましたね。

西宮に帰って自宅で子供を教える傍ら、最初はエキストラで参加していたの。団員になってから5年間、朝比奈先生をはじめとする指揮者の方々や外国からみえるソリストから本当にたくさん学びました。大学ではテクニックを習ったけど、音楽的なことは大フィルで培われたの。そのとき得たものが今、生きてると思う。若い仲間も多くてほんとに楽しい時代だった。初めて、ヴァイオリンやっていて良かったと親に感謝しました。

だけど、学生時代に婚約していた彼がドイツに赴任することになって、オケをやめて楽器も置いてついて行くことにしたの。帰国してからも家事、育児に専念して、楽器は長い間押し入れにしまったままになっていたのよ。

一では、再開されたのはいつからでしょう？

そのころ戸塚に住んでいたのだけど、ある日なぜかふっと、押し入れから楽器を出して弾いてみたくなったの。そしたら通りがかった人が「ヴァイオリン、素敵ですね～」と言ってきて、それが再開するきっかけだったと思う。元々教えるのが好きだったし、少しずつ近所のお子さんの手ほどきから始めました。海老名に移ってからは楽器店と自宅の両方で教えていたのだけど、お弟子さんも増えちゃんとしたレッスン室が欲しくて、厚木のこの家を自分で探したのよ。

「二葉会」という教室の名前は、廻神先生の教室の名前を頂いて受け継いだの。先生は「あなたは先生孝行ね」と大変喜んで下さいました。

一その後、厚響との出会いが？

息子が歌うコーラスの初舞台があり、同じステージで次に演奏したのが厚響でした。市民オケの存在を知って、これからの楽しみのために趣味としてこういう団体に入るのもいいかなと思ったの。始めはエキストラで後ろで弾いていたのだけれど、堤剛さんがドヴォルザークのチェロコンを弾いたとき(1983年、第10回定期)に入団、同時にコンミスを務めることになりました。

一それ以来30年コンミスの大役を務めてこられました、特に印象深い演奏会は？

マーラーの「復活」(2004年、特別演奏会)ね！3年も準備期間をとって、本当にみんなの力が一つになった感じがありました。藤田先生(前常任指揮者)の最後の演奏会(2002年、第48回定期)ショスタコーヴィチの12番も良かった。大浦先生との初めてのオペラや長野先生のヒンデミット「画家マティス」もね。「シェヘラザード」では大きなソロをいただいて、練習に熱が入りました。バルトークの「オケコン」のときは、旅先の中国でも一生懸命練習したのを覚えているわ。



1960年

一旅行にはいつも楽器を持参されるのですか？

それはずっと最初からなの。何日も弾かないで、帰って来たときにダメージを感じるのが嫌なのよ。習い始めてから今日まで「練習しなきゃ！」と思わない日は一日も無かったかも。昔はその楽しさや面白さがわからなくて練習が嫌いだったけど、長い間積み重ねてきてやっと本当の面白さが分かってきたの。続けている内にだんだん向こうから寄ってきたのね、Vn.が。今はVn.の無い人生は考えられない。この頃は毎日時間の許す限り、学生の頃みたいに練習しているのよ。年をとるに従って突き詰めたいという思いが強くなって、大体じゃ許せなくなるの。でもね、昔から何事に対しても「負けたくない！」という気持ちはあったみたい。

「上を目指せ！負けたくない！」それが私の「原動力」かしら。



最後に先生の座右の銘を伺いました。しばし考えられたのち出てきた言葉は「努力」でした。なるほど、先生らしい言葉です。昔はVn.があまり好きではなかったと伺い、意外な気がしましたが、それでもいつも「上を目指せ！負けたくない！努力！」の精神で楽器と向き合ってきたのですね。

オーケストラで時には1時間を超えるような大曲を演奏するには、大変な集中力が必要です。まして、ステージ中央に座って常に指揮者とコンタクトを取りながら団員を牽引していく苦勞は、その他大勢でヴァイオリンを弾いている自分にはとても想像できないものです。真夏の太陽の下で、たくましく大きな花を咲かせる向日葵、その向日葵のような天野先生、どうぞこれからも私達をよろしく願いいたしますね！

*** ✨ 今回出演される先生方から お祝いメッセージが寄せられました ✨ ***

♪ 阿部 真也 先生 (ヴィオラ独奏)

天野克子先生との幸運な出会いは、2009年のある室内楽演奏会、シューベルトのピアノ五重奏曲「鱒」を私はヴァイオリン奏者として演奏させて頂いたのですが、その演奏会に天野先生がお越し下さいました。その折、演奏終了後に「あなたの音楽大好きよ！素晴らしい！！！」と、まるで向日葵が開花した様な笑顔と共に、熱烈な握手をして頂いた事を今も鮮明に覚えております。

それ以来、私は天野先生の虜になりました。

この度モーツァルトのコンチェルトで共演という、大変に光栄な機会を頂戴いたしまして、長野力哉先生、厚木交響楽団の皆様の音楽、雰囲気尊重しながらも、「挑戦」という言葉を私の中では大切に演奏させて頂ければと思っております。折角頂いた演奏の一時を奏法、解釈に対して「いつもの」にとどまる事無く、天野先生、長野先生、オーケストラの皆様と共に奏であって行く中で、私達の「モーツァルト」を演奏させて頂ければと思っております。

喜びに満ちあふれる音楽を、まさに「喜びの歳」に共演させて頂いただけです事に、心からの感謝と御祝いを申し上げます。

阿部 真也



夜桜を背景に

♪ 長野 力哉 先生 (モーツァルト指揮)

天野先生 喜寿おめでとうございます！

天野先生と厚響と共に音楽をする機会を持たたのは私にとって大変に幸せなことです。モーツァルトのト短調交響曲やマーラーのアダージェットでは先生の細かな感性に触発されながら指揮をすることができました。しかしなんと言っても先生との最大の出来事は、ドイツ演奏旅行の企画をゼロからスタートさせたことです。先生の存在なくしてベルリンの旅行はあり得ませんでした。

計画を実現させるためには何がもっとも大切なことなのか。何故、何もないところに50人も人が集い、ひとつのオーケストラ となってドイツに行く事が可能なのか。この時天野先生が諄々と語ってくれた言葉は深く、暖かく、そこから始まるすべてに意味を与えてくれるものでした。先生の卓越した洞察力、行動力に私自身大いに影響を受け、計画はどんどん進み、決まっていきました。天野先生との出会いは私の人生に於いてもっとも素晴らしい出会いのひとつであり、歓びであり、感謝の気持ちは尽きません。

これからも音楽をご一緒させていただくのを楽しみにしております！

長野 力哉



ベルリンのホテルの前で

♪ 田久保 裕一 先生 (マーラー指揮)

天野先生、喜寿を迎えられ誠にありがとうございます。厚木交響楽団の皆さんとは、10年以上の長いお付き合いになりましたが、天野先生と出会った時から、先生の豊富な経験と素晴らしい音楽性、そしてオーケストラをまとめてくださる牽引力、さらに年齢を感じさせない行動力と決断力には毎回脱帽の連続です。7年前の天野先生の「古希」のお祝い演奏会の時に「先生、今度は喜寿ですね」と申し上げてから早7年が過ぎてしまったのです。海外公演ではウィーンの第九にはじまり、ニューヨークのモツレク、シュテファン大聖堂でのモツレク、そして昨年のザルツブルクでの公演にご一緒していただき、私のサポートをして下さっています。もはや厚木交響楽団と海外公演には欠くことのできない大きな大きなゴッドマザーなのです。

時に「お茶目な」性格をのぞかせてくださいます。その結果旅先でちょっとした失敗をすることも(笑)。私が素敵なお土産を持っていると「田久保先生、それどこで買ったの？私も買ってこよう」と走り、その結果集合時刻に遅れたりとか……。おいくつになっても少女のような感動を忘れない、そして並々ならぬ好奇心の持ち主で、いつも周りの私たちを楽しませ和ませてくださいます。

先生にはこれからもお付き合いいただければと期待しております。今後厚木交響楽団とは何をやりましょうか？海外公演はどこに行きましようか？夢は尽きませんが、その夢の中心に必ず天野先生がいらっしゃることをイメージしています。先生、これからも頼りにさせてください。そしていつまでもお元気で私たちを叱咤してください。

指揮者 田久保 裕一



昨年のザルツブルク公演でのひとコマ

先生方、お忙しい中 どうもありがとうございました！

2014年度 会計報告 (会計年度は2014年4月1日～2015年3月31日)

【会員数】

種類	年会費(円)	人数(口数)	計(円)
Solo	2,500	16 (17)	42,500
Duet	5,000	7	35,000
Concert	10,000	6	60,000
Symphony	30,000	1 (2)	60,000
計	—	30人 (32口)	197,500

【収入と支出】

収入(円)		支出(円)	
昨年度繰越金	21,197	郵送代	14,852
会費	197,500	事務用品	6856
貯金利息	56	年賀状ハガキ	4,160
		会員招待入場券代金	78,000
		振込手数料	432
		交響楽団助成金	90,000
		慶弔費(弔電)	0
		次年度繰越金	24,453
計	218,753	計	218,753

厚木交響楽団友の会 2014年度会計は、6月の定例役員会において、会計監査、承認されました。定期演奏会等の入場券代金78,000円のほか、90,000円を団への助成金として、楽器の運搬用トラックの維持費、ガソリン代等に充てさせていただきました。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。



● 第74回 定期演奏会

12月13日(日) 14:00 開演 伊勢原市文化会館 大ホール
 ロッシーニ 歌劇「アルジェのイタリア女」序曲
 ヴィエニャフスキ ヴァイオリン協奏曲 第2番
 チャイコフスキー 交響曲 第4番
 指揮/柴田 真郁
 ヴァイオリン独奏/木野 雅之
 (日本フィルハーモニー ソロコンサートマスター)

事務局より

7月25日に杉並区民オペラ公演「魔笛」を鑑賞して参りました。新生「杉並区民オペラ管弦楽団」には当楽団からも10数名が参加しています。初めて客席からゆっくり観ることが出来ましたが、杉オペではお馴染みの森山太さんの演出で、白い垂れ幕やパネルをうまく使ったシンプルな舞台に照明が映え、当然の事ながら日本語による掛け合いはスムーズに理解でき、大変楽しいステージとなりました。

「第73回定期演奏会」の招待券を同封させていただきました。※開演時刻がいつもと違いますのでご注意ください。まだまだ厳しい暑さが続きますが、どうぞ皆様お元気でこの夏を乗り切ってくださいませ。暑さも一息ついているはずの9月6日、厚木市文化会館の大ホールにてお待ちしております。

